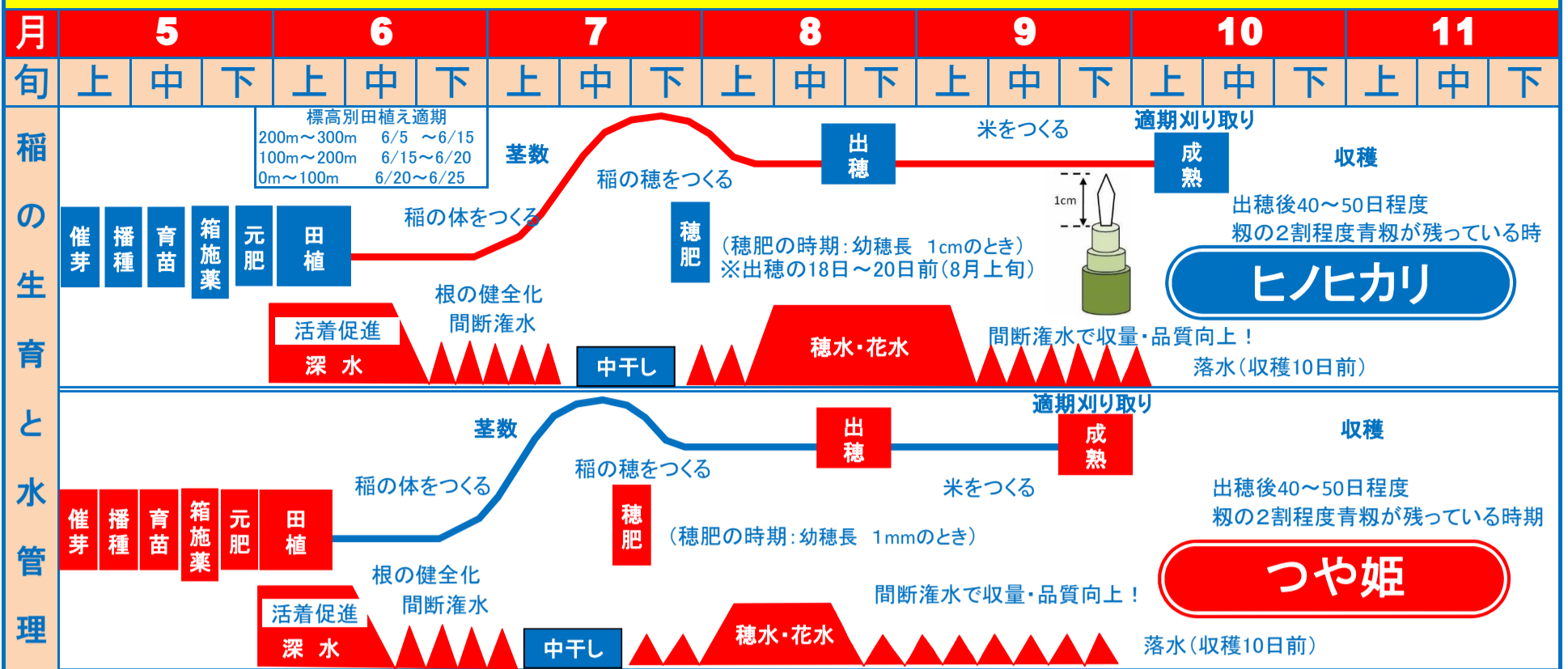


# 2021年度 豊後大野市水稻栽培暦 特別栽培米用 (ヒノヒカリ・つや姫)



獣害対策 鹿・猪・鹿  
鹿ネット設置・苗の食害防止 電気柵の設置 猪等の侵入防止 柵の点検・柵周辺の草刈 天地返し 2番穂鋤込 ~年内

栽培のポイント		品質向上のポイント						
<b>育苗</b>	①箱消毒 イチバン(500~1000倍液) ②塩水選 うるち比重 1.13(塩:4.0kg/水:20L) ③種子消毒 タブブロック100g + スミチオン乳剤20ml(1成分) ④浸種 積算水温で100℃を基準(水温18℃...6日間) ⑤播種 うす播き(120g~150g)	<b>基</b> 病害虫 <b>幹</b> 防除時期 <b>防</b> 薬剤名 <b>除</b> 施用量	コウ紋い ブ ノ 枯 メ カ チ メイ ガ類病	稲 こ う じ	カ メ ム シ 類	ウ ン カ 類	い も ち 病	
<b>田植</b>	※ヒノヒカリは高温障害が発生しやすいので極端な早植えは避け、適期に田植を行いましょ。		①1株植付本数3~4本。 ②株間 22~26cm (1坪当り 50~40株) 株間 22cm ⇒ 1坪当り50株 株間 26cm ⇒ 1坪当り40株 ③除草剤散布後は補植をしない。 ④補植苗は田より早急に撤去する。 (いもち病の発生源)	播種(育苗箱施薬)時 移植当日	出穂 10日前まで 20日前から	穂出 穂期前後	◎「高温登熟障害」に注意 「高温登熟障害」の症状は、白未熟粒の増加や充実不足等で検査等級及び食味の低下をもたらすため適正な管理を徹底する。 ◎施肥基準の遵守 気象変動に対応しうる稲体づくりのため、基準を参考に施用。 ◎こまめな水管理 水のためっぱなしはガス湧きの原因となる。栽培期間中は、間断灌水(3日湛水4日落水)を行う。水が豊富な地域では、登熟時に掛け流しや夜間のかんがいによる地温の低下、収穫時には落水時期延長などを行い、根の健全化を図る。 ◎適期刈取り 早刈り・刈遅れに注意する。収穫適期は籾の2割程度青籾が残っている時期。早刈りは未熟粒が増え、刈遅れは胴割れ米、茶米が発生しやすくなる。 ◎乾燥調製 高温乾燥・過乾燥・急速乾燥を避ける。(胴割れ米の発生)(適正水分14.5~15%) 蒸れ米に注意する。 ライスグレーダーの調整を行い、屑米・被害粒を完全に選別。(調製:網目1.85)	
<b>中干し</b>	1株に茎数が20本程度確保できたら、田面にヒビが入る程度(ヒビの幅が約1cm)に干す。		スクラム箱粒剤(4成分)	Zポルドー粉剤DL	スタトラール(2成分)	スタームエイト(2成分)	どちらかを使用	
			50g/箱	3kg~4kg/10a	3kg~4kg/10a	1000倍・60L~150L/10a		

## 除草剤の使い方

**初・中期一発剤**

移植時・直後~30日	プライオリティ(2成分)(粒・ジャンボ・フロアブル)	ノビエ 3.5葉期まで
移植後7日~ノビエ4葉	クリンチャー(1成分)(粒・ジャンボ)	ノビエのみ
移植後15日~収穫60日前	バサグラン(1成分)(液・粒) ※落水散布	広葉のみ
移植後20日~ノビエ6葉	ワイドアタックSC(1成分)	ノビエ・広葉

**移植後の除草剤散布のポイント**

7日間水を入れない!

← 間断灌水 →

2~3日田面が出てても除草効果に影響なし

自然な減

**中・後期剤**

- 代かき・あぜ塗り・均平化作業は丁寧に
- 浅植えや浮き苗が生じないよう適正な深度で植えつける
- 移植後直ちに入水(水深3~5cm)
- 散布後3~4日は湛水状態を保ち、7日間は落水・かけ流し禁止
- 極端に植穴の戻りが悪い水田では、薬剤が直接根にあたるため、田植同時処理を行わない
- 除草剤散布後に水田内を歩行することは、処理層を壊すため補植は極力しない

※使用にあたっては必ずラベルを読んでください。

**土づくり**

- 粗大有機物投与による土壌改善
- 土壌改良剤による調和のとれた土作り
- 深耕による有効土層の拡大
- 3年に1度の土壌診断による適正管理

堆肥や稲わらを還元しない圃場では、地力の低下が懸念されます。地力の低下は、収量だけでなく、検査等級や食味の低下をもたらします。土壌診断を実施し、足りない要素を補いましょう。

**有機物の施用方法**

稲わらの鋤き込み(分解促進には「ワラ分解キング」)、「アグリ革命」等の資材を活用)

**土壌改良材の施用方法(耕起前)**

普通田	ケイカル、ミネラルG 100~200kg
	とれ太郎 50~60kg
	けい酸加里プレミア34 40kg
	土改王 60~90kg
湿田・砂湿田	珪鉄 150~200kg

秋落ち現象(根腐れ)防止と倒状及び病害虫の軽減効果を図るため、必ず施用する。

## 肥料の施し方

県基準窒素量(元肥・追肥)(kg/10a):ヒノヒカリ4-3、つや姫4-2

	商品名	成分(%)			施肥量(kg)/10a	窒素成分量(内化学肥料)(kg)
		窒素	リン酸	カリ		
通常分施	元肥	特栽用BB852			ヒノヒカリ 40~50	3.2~4.0 (1.6~2.0)
	穂肥	特栽用追肥047			つや姫 40~50	3.2~4.0 (1.6~2.0)
一発肥料		ぶんご特栽用一発(100日)			ヒノヒカリ 20~30	2.0~3.0 (1.0~1.5)
		特栽用一発オール10号(90日)			つや姫 10~20	1.0~2.0 (0.5~1.0)
		ぶんご特栽用一発(100日)			ヒノヒカリ 60~70	6.0~7.0 (3.0~3.5)
		特栽用一発オール10号(90日)			つや姫 50~60	5.0~6.0 (2.5~3.0)

※施肥量は土壌、地力、施肥方法、天候等により適宜増減してください。 発行:JAおおいと豊肥事業部 監修:豊肥振興局生産流通部、豊後大野市農作物病害虫防除協議会、豊後大野大規模作部会